



出演が決まったのは、一昨年の秋です。山岳会のメンバーを選ぶオーディションがありまして。僕はオーディションというと、だいたい落ちるだろうなと思ってしまいうほうで(笑)。受かった理由というのは・・・何でしょうね。監督からは「お前のオヤジ(役所広司)のことを知ったのは後だからな」ということは、しつこく言われました。

その後、実際、山での撮影に入ったのは昨年の5月からです。最初は、なんと言うことはない登山道ですが、途中からガラリと景色が変わり、雪も増えるし、フツと下を見ると「あ、これ死ぬな」というところばかりで。

ただ僕は途中で膝を故障してしまい、結局本当に南壁までいけなかったんですね。映画の中で山岳会の吉田清三郎は、古傷が痛んで途中で下山しますが、あれは僕が膝を痛めて撮影が続行できなかったことから出てきた設定なんです。

最後まで撮影できなかったことは、本当に悔しいし、膝の手術で入院している間もモヤモヤしたものが残っていました。それが消えたのは、試写を見たときですね。皆が登頂した姿を見てやっと「あ、これで終わったな」と。自分の撮影もようやく終えられた気がしました。

もともと僕は俳優志望ではなく、父とはまったく違う道を進みたいと思っていました。それが大学で映画研究会に入ったのをきっかけに、演じる側も面白いなど、在学中に養成所に入ったわけです。すぐにこういう映画に出られたことは、本当にラッキーです、木村監督にも「お前は運がいい」とさんざん言われてるんですけど。

これからはしっかりと脇を固めていけるような役者になりたいですね。、刺身のツマのような・・・(ん?)、じゃなくて、・・・ワサビを溶いた醤油のような、味を出す役者を目指します。

橋本 一郎 はしもといちろう

1985年、東京生まれ。役所広司氏の長男。 07年「俺は君のためにこそ死にに行く」(新城卓監督)でデビュー。